

目的および方法

動作適応衣服の設計に必要であるとの考えから、動体における形態変化をとらえることを目的とした。資料は、前報と同様である。被験者の体表に入れた、前後正中線・乳頭線・胸囲線・胴囲線上のマークの軌跡に添って、切断面を解析し、動体における形態の変化の様態を検討した。

結果

- 1 上肢運動に伴い、変化する様態を把握することができた。
- 2 片上肢拳動と両上肢拳動には差が認められた。
- 3 上肢拳動に伴い、著しい変化が認められるのは腕付根周辺である。
- 4 前面・後面は、それぞれ独自の変化を示し、後面の変化が著しいことがわかった。これは、後面の巾とりとして考慮する必要があると考える。